

昭和女大家政 清水薫 ○猪又美栄子 森本敏子

<目的> 手・指先の運動機能が未発達な幼児の衣服では、着脱が容易な形式であることが望まれる。また、幼児自身で衣服の着脱が出来るようになるのは、ボタンのかけはずしが可能になってからである。本研究では、幼児にボタンのかけはずし動作への興味を持たせ、さらにその習得を助けるために、幼児に適したボタンおよびボタンホールを解明した。

<方法> 2～5歳の保育園児28名と成人女子4名を被験者とし、ボタンのかけはずし動作について着用実験を行なった。要因は、ボタンホールの方向（タテ・ヨコ）とボタンの直径（1cm・2cm・3cm）である。ビデオにより、ボタンのかけはずしの手の動きの観察およびかけはずし動作の所要時間の測定を行なった。所要時間の分散分析により、幼児が容易にかけはずし出来るボタンおよびボタンホールについて考察した。

<結果> 1) 幼児のボタンのかけはずしの手の動きに、成人との明らかな差異がみられた。2) ボタンかけの所要時間について分散分析した結果、ボタンホールの方向が5%の危険率で有意となり、幼児ではタテ方向のボタンホールの方が短時間でボタンかけを完了出来ることがわかった。また、今回の実験ではボタンの直径のボタンかけ時間への影響はみられなかった。3) ボタンをはずす時間については、ボタンホールの方向、ボタンの直径ともに1%の危険率で有意となった。ボタンホールがタテ方向、ボタンの直径が2cmの場合がはずし易いことがわかった。